

〔 特 集 〕

コロナ後どうなった？ 子どもの感染症

私は小児科で、特に感染症診療を専門としているため、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は一言で言うと「大変」でした。いわゆる「コロナ禍」では院内感染対策、小児重症 COVID-19 の診療、ワクチン接種など、本当にいろいろな対応に追われ続けて毎日毎日過ごしていました。ただし、コロナで「大変」だったのは、私に限ったことではなく、世界中のすべての人々が「大変」でした。それくらいに社会や生活の隅々まで影響を及ぼしたのが COVID-19 流行でした。日本では 2023 年 5 月に感染症法 5 類相当疾患に変わり、ひと段落したようにみえています。

さて、COVID-19 流行から約 5 年が経過しようとしています。コロナ前とコロナ後で、皆さんの周りで何か変化はありましたか？「感染症」という観点から COVID-19 流行後にどんな変化があったのか、反省点も含めて、そろそろ見直すべきタイミングなのではないか？ と思い本特集を企画しました。執筆陣は皆、現場で COVID-19 流行と戦い続け、今も子どもの感染症と戦っている方々です。コロナ後も変わらない大事な大事な子どもたちのために、ぜひ通読してください！

（あいち小児保健医療総合センター総合診療科／伊藤健太）

